

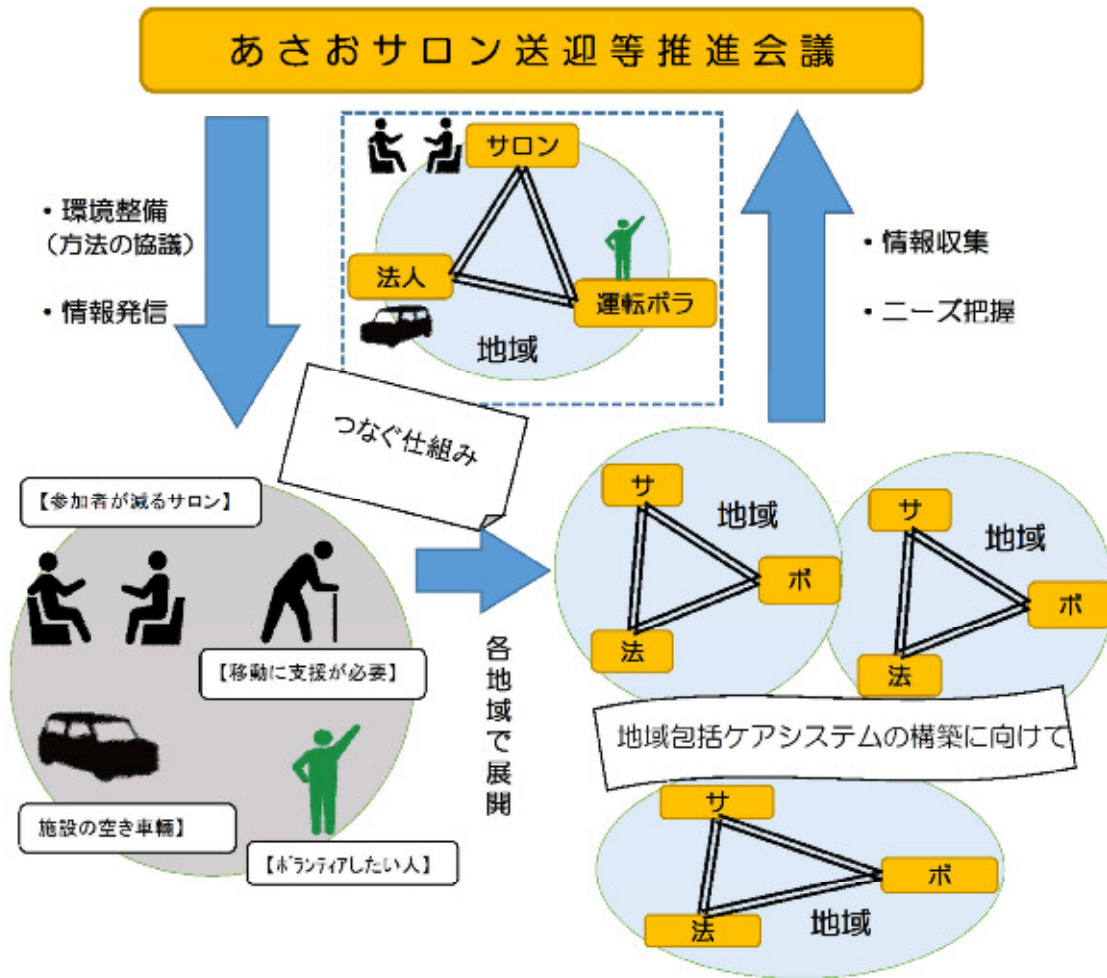
あさおサロン送迎 ガイドライン

平成30年1月29日

あさおサロン送迎等推進会議

麻生区で暮らす高齢者や障がい者が、気兼ねなく安心してサロンに通い続けるために、地域の施設とボランティアがつながります。サロン参加者・運転ボランティア・車輦貸出施設・サロンが、安全を第一に考え、お互いに信頼し参加する支え合いの地域づくり。

施設による地域への貢献、ボランティアやサロンによる地域の見守りを通じて、さまざまな方が暮らす地域全体の安心安全に寄与します。地域のサロンへの送迎を、地域の力が支える取組です。



<サロン送迎の仕組み>

- 車輦貸出施設 月に何回か車輦を無償で貸出しします。
(送迎の時間帯に稼働しない予定の車輦)
- 運転ボランティア 貸出施設の車輦でサロン参加者の家から会場の間を送迎します。
- サロン 利用者を登録（同意書が必要）し、毎回の出欠を事前に確認して、送迎担当者に事前に連絡します。

施設 の 役 割

1. 自動車任意保険及び施設賠償保険に加入し、送迎中の事故に対して、ボランティアをカバーする保険に加入します。
2. 安定的に車輦を貸し出し、車輦の損傷については、原則施設が対応します。
3. 車輦の出発、帰車の際に、運転ボランティアの活動を見守り、必要時には支援を行います。

運 転 ボ ラ ン テ ィ ア の 役 割

1. 2人体制で行います。
 - ①運転手さんを一人にしないので、安心して活動できる。
 - ②双方で注意し合えるので、安全走行につながる。
 - ③万が一の際に運転手交代も出来、事故対応が充実する。
2. 安全運転テストに合格し、登録をし、安心安全運転の留意点に沿って活動します。
 - ①テストは施設の安全運転管理者又は準ずる人(施設が安心できる人材)が実施する。
 - ②事故リスクを防ぐために、誰でも良いとするのではなく登録をして活動する。
 - ③最低限、安心安全運転の留意点を守って送迎する。
 - ④リスク管理方法を確認して送迎を行いましょう。
* 車内外での体調の急変、交通事故、乗降時の怪我等
3. 送迎活動の記録をつけます。

記録表には、運転手名、運転前チェック（疾病、疲労、飲酒、免許証）、走行キロ数、利用者名・住所、使用車輦名、天気、引き継ぎ事項、その他必要な事項を記載する。

サロンの役割

1. 利用者の条件を決めます。事前に利用者から同意書（緊急時の連絡先に子又は親族が署名）を提出し、登録し名簿等を管理します。
2. 送迎の利用者の出欠を前日迄に車輛貸出施設（又は運転ボランティア）に連絡します。

安心安全運転の留意点

その1 3つの配慮

配慮1 普段以上の安全運転

- ・急ブレーキ、急加速、急発進は厳禁です。
- ・急なハンドル操作も厳禁です。
- ・小さな段差でも後部への振動が大きいことへの注意が必要です。
- ・確実にシートベルトが装着されたか確認します。

配慮2 サロン送迎は「声掛け」を大切に

- ・「出発します」「止まります」「右（左）に曲がります」などの声かけをしましょう。
 - * 車の動きを知らせることで安全性を高めます。
- ・「お変わりありませんか」とあいさつしながら、体調の確認をしましょう。
 - * 顔色や口数にも注意をしましょう。
- ・「こんにちは」と笑顔でふれあう楽しい時間が継続のコツです。

配慮3 事前の準備

- ・送迎先を地図で確認しておきましょう。
 - * 道を聞きながらの運転は危険です。
- ・搭乗予定者の情報や配慮点をサロンに確認しましょう。
- ・体調が悪くなった時のために、タオルやエチケット袋を用意しましょう。

その2 停車時の注意

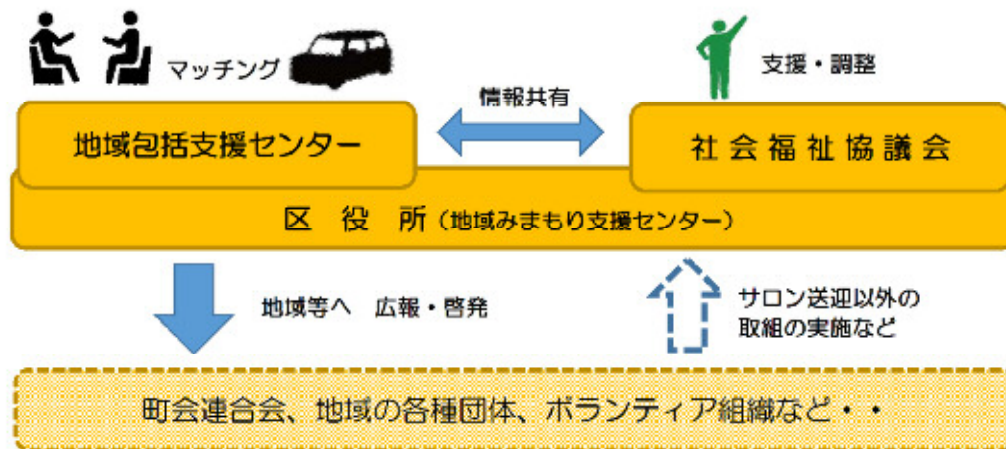
- ・忘れずにサイドブレーキを引き、シフトをパーキング（P）に入れます。
 - * 運転席を離れる際には、エンジンを切りましょう。
- ・駐停車の場所が安全に乗降が可能かどうか確認しましょう。
 - * 坂道での駐停車、曲がり角、舗装状況 etc.
- ・他の車輛の邪魔にならないかの確認を行いましょう。
 - * すれ違いができる？ 他の駐車場を塞いでいない？

その3 乗降時の注意

- ・乗降時は必ず車から降りて、お手伝いしましょう。
- ・荷物や杖は、安全のため乗降時には一時預かりましょう。
- ・乗降時は、扉の上部に頭をぶつけないように注意しましょう。
 - * 声をかけて促すとともに、扉フレームの上部に手を添えて接触を防ぎます。
- ・坂道では、スライドドアは必ず手で押さえて乗降しましょう。

その4 その他の注意

- ・雨天時は、ステップ部分が滑りやすくなりますので注意しましょう。
- ・帰りは、降りる順番を考えて座席の位置を決めましょう。
- ・手すりなどつかまる箇所を事前に伝えましょう。



<サロン送迎を支える仕組み>

地域包括支援センター・地域みまもり支援センター

地域の資源の情報を活用し、サロンと施設のマッチングを担います。

上記関係者及び区社協 体制づくりのために、

運転ボランティア募集は地域の団体や自治会等へ働きかけます。

運転ボランティア養成研修は社協が担います。

OJT 研修は、運転ボランティア団体が担います。

運転ボランティア登録とサロン送迎開始フロー、及び書式類を情報共有します。

定期的に関係者が集まり、情報の共有、振り返りを行い、改善を提案します。